

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2022年8月5日

【四半期会計期間】 第73期第1四半期(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

【会社名】 三精テクノロジーズ株式会社

【英訳名】 Sansei Technologies, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 良知 昇

【本店の所在の場所】 大阪府大阪市淀川区宮原四丁目3番29号

【電話番号】 (06)6393局5621番(代表)

【事務連絡者氏名】 専務執行役員管理本部長 板垣 治

【最寄りの連絡場所】 大阪府大阪市淀川区宮原四丁目3番29号

【電話番号】 (06)6393局5621番(代表)

【事務連絡者氏名】 専務執行役員管理本部長 板垣 治

【縦覧に供する場所】 三精テクノロジーズ株式会社東京支店
(東京都新宿区新宿四丁目3番17号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第72期 第1四半期 連結累計期間 | 第73期 第1四半期 連結累計期間 | 第72期 |
|---|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 2021年4月1日 至 2021年6月30日 | 自 2022年4月1日 至 2022年6月30日 | 自 2021年4月1日 至 2022年3月31日 |
| 売上高 (千円) | 7,471,367 | 6,889,835 | 34,404,350 |
| 経常利益又は経常損失() (千円) | 56,472 | 825,093 | 1,880,508 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失() (千円) | 118,122 | 646,549 | 1,448,739 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (千円) | 170,622 | 325,481 | 2,048,191 |
| 純資産額 (千円) | 31,479,747 | 33,074,611 | 33,073,057 |
| 総資産額 (千円) | 66,061,572 | 66,868,413 | 65,401,748 |
| 1株当たり当期純利益 又は四半期純損失() (円) | 6.38 | 34.94 | 78.29 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円) | | | 77.18 |
| 自己資本比率 (%) | 47.4 | 49.2 | 50.3 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第72期第1四半期連結累計期間及び第73期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるマクロ経済の状況は、新型コロナウイルス感染症への対応と社会経済活動の両立が進み、持ち直しの動きが見えはじめています。一方で、ウクライナ情勢の長期化や、半導体関連部品の供給不足と原材料価格の上昇、更には米国金利引き上げに伴う金融資本市場の変動などが懸念され、世界経済の先行きは再び不透明感が増している上、国内では新たな変異株による感染の再拡大も進むなど、予断を許さない状況となっています。

当事業については、昇降機分野では前期に受注した工事が着実に進捗しましたが、遊戯機械や常設の舞台機構の分野で、前期と比べて大型案件の進捗が一服していることや諸コストの増加などの影響を受けました。

この結果、売上高は6,889百万円（前年同期比7.8%減）、営業損失は924百万円（前年同期は営業損失131百万円）、経常損失は825百万円（前年同期は経常損失56百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は646百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失118百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（売上高はセグメント間の内部売上を含んでおりません。）

遊戯機械

海外を中心に受注環境は回復しているものの、昨年売上寄与した大型工事の反動に加えて、国内外でコスト増加による採算悪化や販売費の増加もあり、セグメント売上高は3,453百万円（前年同期比12.0%減）、セグメント損失は315百万円（前年同期はセグメント損失13百万円）となりました。

舞台設備

コンサートやイベント向け仮設舞台装置の需要が回復しつつあるものの、常設の舞台機構で新設・改修工事ともに大型、好採算案件の進捗が一服していることなどから、セグメント売上高は2,350百万円（同5.5%減）、セグメント損失は225百万円（前年同期はセグメント利益125百万円）となりました。

昇降機

公共施設や集合住宅用の改修工事が着実に進捗したことに加え、保守・メンテナンス事業も引き続き堅調に推移したものの、一部の新設案件で不採算工事もあり、セグメント売上高は1,059百万円（同0.6%増）、セグメント損失は12百万円（前年同期はセグメント利益110百万円）となりました。

その他

セグメント売上高は27百万円（同234.9%増）、セグメント利益は10百万円（前年同期はセグメント損失1百万円）となりました。

(資産の部)

資産は、前連結会計年度末に比べ1,466百万円増加し、66,868百万円となりました。これは主に、株価下落により投資有価証券が79百万円減少したのに対し、現金及び預金が359百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が74百万円、仕掛品が528百万円それぞれ増加したことなどによります。

(負債の部)

負債は、前連結会計年度末に比べ1,465百万円増加し、33,793百万円となりました。これは主に、長短借入金が403百万円減少したのに対し、契約負債が1,876百万円増加したことなどによります。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末に比べ1百万円増加し、33,074百万円となりました。これは主に、配当金の支払いに加えて当期損失の影響もあり利益剰余金が970百万円減少したほか、株価下落によりその他有価証券評価差額金が55百万円減少したのに対し、為替換算調整勘定が1,026百万円増加したことなどによります。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、146百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 39,000,000 |
| 計 | 39,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年6月30日) | 提出日現在発行数(株) (2022年8月5日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|----------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 普通株式 | 19,332,057 | 19,332,057 | 東京証券取引所(スタンダード市場) | 単元株式数は100株 であります。 |
| 計 | 19,332,057 | 19,332,057 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|--------------------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 2022年4月1日～ 2022年6月30日 | | 19,332,057 | | 3,251,279 | | 2,989,057 |

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 827,300 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 18,475,200 | 184,752 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 29,557 | | |
| 発行済株式総数 | 19,332,057 | | |
| 総株主の議決権 | | 184,752 | |

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が58株、「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

2022年6月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|---------------------------|-------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 三精テクノロジーズ株式会社 | 大阪府大阪市淀川区宮原 四丁目3番29号 | 827,300 | | 827,300 | 4.28 |
| 計 | | 827,300 | | 827,300 | 4.28 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日) |
|----------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 14,225,298 | 14,584,577 |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | 18,756,079 | 18,830,326 |
| 電子記録債権 | 276,606 | 350,249 |
| 仕掛品 | 498,927 | 1,027,800 |
| 原材料及び貯蔵品 | 2,477,804 | 2,555,888 |
| その他 | 2,076,551 | 2,375,456 |
| 貸倒引当金 | 876,265 | 888,196 |
| 流動資産合計 | 37,435,002 | 38,836,100 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 4,943,983 | 4,977,913 |
| 土地 | 4,239,690 | 4,255,305 |
| その他（純額） | 1,204,192 | 1,175,593 |
| 有形固定資産合計 | 10,387,865 | 10,408,812 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 8,156,084 | 8,297,267 |
| その他 | 1,561,230 | 1,551,930 |
| 無形固定資産合計 | 9,717,314 | 9,849,197 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 5,824,405 | 5,745,019 |
| その他 | 2,037,622 | 2,029,745 |
| 貸倒引当金 | 462 | 462 |
| 投資その他の資産合計 | 7,861,565 | 7,774,302 |
| 固定資産合計 | 27,966,745 | 28,032,312 |
| 資産合計 | 65,401,748 | 66,868,413 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 2,173,831 | 2,066,749 |
| 短期借入金 | 3,965,110 | 3,846,510 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 1,365,520 | 1,318,268 |
| 未払法人税等 | 400,806 | 4,852 |
| 未払消費税等 | 306,004 | 94,479 |
| 契約負債 | 6,298,307 | 8,175,017 |
| 賞与引当金 | 516,852 | 373,438 |
| 役員賞与引当金 | 32,712 | 13,992 |
| 工事損失引当金 | 141,304 | 284,387 |
| その他 | 2,165,716 | 2,946,420 |
| 流動負債合計 | 17,366,166 | 19,124,115 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 11,790,693 | 11,553,315 |
| 繰延税金負債 | 847,195 | 843,546 |
| 退職給付に係る負債 | 2,277,312 | 2,219,079 |
| その他 | 47,322 | 53,744 |
| 固定負債合計 | 14,962,524 | 14,669,685 |
| 負債合計 | 32,328,690 | 33,793,801 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,251,279 | 3,251,279 |
| 資本剰余金 | 2,442,954 | 2,442,954 |
| 利益剰余金 | 25,039,798 | 24,069,415 |
| 自己株式 | 416,780 | 416,874 |
| 株主資本合計 | 30,317,252 | 29,346,776 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,866,272 | 1,811,120 |
| 繰延ヘッジ損益 | 76 | 126 |
| 為替換算調整勘定 | 697,940 | 1,724,237 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 4,305 | 5,393 |
| その他の包括利益累計額合計 | 2,568,594 | 3,540,625 |
| 新株予約権 | 187,210 | 187,210 |
| 純資産合計 | 33,073,057 | 33,074,611 |
| 負債純資産合計 | 65,401,748 | 66,868,413 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日) |
|---------------------|---|---|
| 売上高 | 7,471,367 | 6,889,835 |
| 売上原価 | 5,672,743 | 5,687,807 |
| 売上総利益 | 1,798,624 | 1,202,028 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,930,404 | 2,126,266 |
| 営業損失() | 131,780 | 924,238 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 113 | 98 |
| 受取配当金 | 63,831 | 86,343 |
| 保険配当金 | 835 | 9,471 |
| 助成金収入 | 39,555 | 12,060 |
| 為替差益 | - | 16,352 |
| その他 | 33,838 | 31,073 |
| 営業外収益合計 | 138,173 | 155,399 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 58,954 | 54,856 |
| 支払手数料 | 1,358 | 1,358 |
| 為替差損 | 1,618 | - |
| その他 | 934 | 40 |
| 営業外費用合計 | 62,865 | 56,254 |
| 経常損失() | 56,472 | 825,093 |
| 税金等調整前四半期純損失() | 56,472 | 825,093 |
| 法人税等 | 61,650 | 178,544 |
| 四半期純損失() | 118,122 | 646,549 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失() | 118,122 | 646,549 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純損失() | 118,122 | 646,549 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 224,827 | 55,152 |
| 繰延ヘッジ損益 | 3,039 | 203 |
| 為替換算調整勘定 | 514,443 | 1,026,297 |
| 退職給付に係る調整額 | 2,169 | 1,088 |
| その他の包括利益合計 | 288,744 | 972,030 |
| 四半期包括利益 | 170,622 | 325,481 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 170,622 | 325,481 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | - | - |

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

| 当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) | |
|--|--|
| 1. 原価差異の繰延処理 | 操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間未だにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産又は流動負債として繰延べております。 |
| 2. 税金費用の計算 | 税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益又は税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は法人税等を含めて表示しております。 |

(追加情報)

| 当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) | |
|--|--|
| (新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて) 前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について、重要な変更はありません。 | |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) |
|---------|---|---|
| 減価償却費 | 243,801千円 | 247,715千円 |
| のれんの償却額 | 186,426 " | 194,988 " |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2021年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 370,102 | 20.00 | 2021年3月31日 | 2021年6月30日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2022年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 323,834 | 17.50 | 2022年3月31日 | 2022年6月30日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|---------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------------|-----------|--------------|--------------------------------|
| | 遊戯機械 | 舞台設備 | 昇降機 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 3,923,958 | 2,486,582 | 1,052,757 | 7,463,299 | 8,068 | 7,471,367 | | 7,471,367 |
| セグメント間 の内部売上高 又は振替高 | 1,417 | | | 1,417 | 180 | 1,597 | 1,597 | |
| 計 | 3,925,376 | 2,486,582 | 1,052,757 | 7,464,717 | 8,248 | 7,472,965 | 1,597 | 7,471,367 |
| セグメント利益 又は損失() | 13,956 | 125,231 | 110,600 | 221,875 | 1,456 | 220,419 | 352,199 | 131,780 |

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、レジャー・サービス業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|---------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------------|-----------|--------------|--------------------------------|
| | 遊戯機械 | 舞台設備 | 昇降機 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 3,453,455 | 2,350,360 | 1,059,001 | 6,862,816 | 27,018 | 6,889,835 | | 6,889,835 |
| セグメント間 の内部売上高 又は振替高 | 1,075 | | | 1,075 | 180 | 1,255 | 1,255 | |
| 計 | 3,454,530 | 2,350,360 | 1,059,001 | 6,863,892 | 27,198 | 6,891,091 | 1,255 | 6,889,835 |
| セグメント利益 又は損失() | 315,899 | 225,436 | 12,133 | 553,469 | 10,710 | 542,758 | 381,480 | 924,238 |

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、レジャー・サービス業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

当社グループの売上高は、顧客との契約から生じる収益であり、当社グループの報告セグメントを収益の認識時期に分解した場合の内訳は、以下のとおりです。

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) | 合計 |
|----------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|
| | 遊戯機械 | 舞台設備 | 昇降機 | 計 | | |
| 収益の認識時期 | | | | | | |
| 一時点で移転される財又はサービス | 680,197 | 1,310,816 | 773,332 | 2,764,346 | 4,813 | 2,769,160 |
| 一定期間にわたり移転される財又はサービス | 3,243,761 | 1,175,766 | 279,425 | 4,698,952 | 3,255 | 4,702,207 |
| 外部顧客への売上高 | 3,923,958 | 2,486,582 | 1,052,757 | 7,463,299 | 8,068 | 7,471,367 |

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、レジャー・サービス業であります。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) | 合計 |
|----------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|
| | 遊戯機械 | 舞台設備 | 昇降機 | 計 | | |
| 収益の認識時期 | | | | | | |
| 一時点で移転される財又はサービス | 1,199,924 | 1,076,153 | 727,726 | 3,003,804 | 23,943 | 3,027,747 |
| 一定期間にわたり移転される財又はサービス | 2,253,530 | 1,274,206 | 331,274 | 3,859,012 | 3,075 | 3,862,087 |
| 外部顧客への売上高 | 3,453,455 | 2,350,360 | 1,059,001 | 6,862,816 | 27,018 | 6,889,835 |

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、レジャー・サービス業であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) |
|---|---|---|
| 1株当たり四半期純損失() | 6円38銭 | 34円94銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円) | 118,122 | 646,549 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | | |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円) | 118,122 | 646,549 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 18,505,093 | 18,504,789 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要 | | |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

(新株予約権の発行)

当社は、2022年7月7日開催の取締役会において、会社法第236条、第238条及び第240条に基づき、当社取締役及び執行役員に対し株式報酬型ストック・オプションとして新株予約権を発行することを決議いたしました。発行内容は以下のとおりであります。

(1) 新株予約権の名称

三精テクノロジーズ株式会社 第8回新株予約権

(2) 新株予約権の総数

648個(新株予約権1個につき100株)

(3) 新株予約権の払込金額

新株予約権の割当日においてブラック・ショールズ・モデル等により算定した公正価値に基づいた価格を払込金額とする。新株予約権の割当てを受けた者は、当該払込金額の払込に代えて、当社に対する報酬債権と相殺する。

(4) 新株予約権の目的となる株式の種類及び数

当社普通株式 64,800株

(5) 新株予約権の割当ての対象者及びその人数並びに割当てる新株予約権の数

当社の取締役 5名 373個

当社の執行役員 15名 275個

(6) 新株予約権の割当日

2022年8月5日

(7) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

新株予約権の行使により交付される株式1株当たりの払込金額を1円とし、これに付与株式数を乗じた金額とする。

(8) 新株予約権を行使できる期間

2022年8月6日から2052年8月5日までとする。ただし、権利行使期間の最終日が当社の休業日にあたる時は、その前営業日を最終日とする。

(9) 新株予約権の行使の条件

新株予約権者は、当社の取締役、執行役員のいずれの地位も喪失した日の翌日から10日を経過する日までの間に限り、新株予約権を一括してのみ行使できるものとする。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年8月5日

三精テクノロジーズ株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 内 田 聡

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 徳 野 大 二

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三精テクノロジーズ株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三精テクノロジーズ株式会社及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して

実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。